
—

水

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

—

【Nコード】

N7269Y

【作者名】

水

【あらすじ】

魂の足りない上の世界。いらない魂を回収する仕事をしているゼ口の次の依頼は大学に通っていない生きる意味もわからない22歳の少年だった。

依頼

電話の音がする。人の足音がする。誰かの話し声がする。僕はタバコに火をつけて、ため息にもならないような息を吐いた。世の中はもうクリスマスも目前、人がいつもにもましてざわついて、急いでいるように見えた。

僕はコンビニで適当に腹を満たすものを買って、家に帰る。ただいま、と声をかけたけれど、返事をする声は聞こえなかった。あの子がいなくなったのはいつだったかな、出て行った。僕を軽蔑のまなざしで見ている。あの目はどこかの雑踏にまぎれて消えてしまったんだろう。僕は、今何をしているんだろう。社会というものは僕には不都合すぎる。尊敬もできない上司と、それに媚びる事しかできない同僚と、見ているのか、見ていないのか。この僕と。世の中に必要なものは仕事のできるやつではなくて、自分にとって都合のいい行動をする人間。僕には無理だった。

「仕事、探さないとなあ……」
思っているのかいないのか、ふとそんな言葉が漏れた。

「えーと、次の案件は、この人ですね。22歳、大学院生、性別は…男かな？大学へは、もうここ半年位通っていないようなので、まあこのままいけば留年でしょう。この人の、生きている意味を調べていただきます。」

「はい」

「不要だと感じたら魂を返していただくようにお話してください。」

「はい。承りました。」

12月10日

僕に、生きる意味なんてあるのか？神様がいるとしたら、なぜ僕のような人をこの世に出したのだろう。その意味を。

「知りたくはありませんか？」

なんて声が、聞こえた気がした。

目の前に、人とは言えない人がいる。僕は、目を擦った。

この、なんともいえない人のような人は、ご丁寧にも僕にお辞儀をし、口を開いた。

「いきなりのご訪問、無礼で申し訳ありません。私は、上からの依頼で仕事をしているゼロと申すものです。今度の依頼はあなたなのです。」

「…はあ」

こいつはだれなんだ？

どこからきた？

人間なのか？

ああ、もしかして…

「少し混乱していらっしやいますか？無理もありません。何なのかわからないようなモノがいきなり目の前に現れているわけですね。」

「え、と。ゼロさん…ですか。とりあえず、靴を脱いでもらえませんか。あと、どこからきたのですかね。」

ゼロは、すいませんといいながら靴を脱ぎ、僕の正面に座った。

「私は、先ほども申し上げましたように、上からの依頼でああなたの元にやってきました。あなたの生きている意味を、調べるためにやってきたのです。」

僕は、どうしたらいいのかもわからず、ただそいつの話聞いていた。生きている意味なんて、こっちが聞きたい。

「近頃、自殺が流行っていますよね。流行っているというのと、言い

方悪いんですかね…。上の世界では、自殺というものをされると、その魂を次使うことができないんですね。これは、なんかコチラの世界でも、どこかの宗教などが、言っていることと同じだと思いません。」

あー、輪廻転生だかなんだかっていう…よくわからない奴のことだろうか。自殺すると生まれ変わることができないから、やめましようねー。みたいなかんじの。

「まさにそれですね。それ以外にも、魂っていうのは、もう一度使うことができる条件みたいなものが存在していて。」

ゼロは、ため息をついた。

「意外とその条件が厳しかったりして、中々魂の使いまわしってのは出来ないんですね…」

ゼロとか言う奴の話をまとめると、上の世界では今魂が不足していて、これは上の世界が始まって以来はじめてのことであり、上の世界の上の人間は、困ってしまったっているらしい。

「なので、次使える魂を持つもので、今、生きる意味がないと判断できるものの魂をさっさと回収してですね、使っちゃおうっていう話なんですね。」

つまり僕の魂をさっさと頂戴してしまいたい、ということらしくかった。

「その判断をするのがこの私です。魂が欲しいといえはそうなのですが、それはあなたが現時点で世界にとって生きていても何の価値もないと私が判断した場合にのみ執行されるものですので、ご安心ください。」

おい、まじですか…

「判断の期間というのは人によってまちまちなのですが、長くても1ヶ月くらいだと思います。それまで、私はあなたの頭の中に住まわせていただくという形ですね。」

だから、さっきから考えていることが筒抜けなんですね。理解しましたよ。

「ご質問などはありませんか？」

ゼロは笑顔ともいえないような微妙な笑みをこちらに向けて、そう
いった。

この日から、僕と奇妙な奴との共同生活が始まる。

依頼（後書き）

読みにくいとは思いますが読んでいただけたらうれしいですー。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7269y/>

—
2011年11月21日21時40分発行